

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	工業簿記 1 (Industrial Bookkeeping 1)					担当教員	中村 大輔 (ナカムラ ダイスケ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目／知識定着・確認 型 AL
	2037-3-23-115	専門科目	選択	2単位	2年次	前期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目／知識定着・確認 型 AL
	2437-3-23-054	専門科目	選択	2単位	2年次	前期		

① 授業のねらい・概要						
1年次配当の簿記入門では商品売買業における基本的な簿記を学んだ。工業簿記1・2では製造業における簿記を学ぶ。工業簿記1では日商簿記検定2級における工業簿記の範囲の中でも費目別計算から個別原価計算までを学ぶ。本講義は事務・経理職のスペシャリストを目指すために必須の知識であり、日商簿記2級対応科目である。						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力						
③ 授業の進め方・指示事項						
授業は講義・演習にPCを用いるのでPC必携である。毎回電卓を持参すること。 資料配付等に Google Classroom を活用する。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
「商業簿記1」「商業簿記2」「工業簿記2」と共に履修することを強く推奨する（全て履修することで日商簿記2級に対応する）。						
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。						
紙の教科書は用いない。代わりとして『Funda 簿記』というPCを用いたシステムを利用し、個人アカウントを購入してもらう。（「商業簿記1・2」「工業簿記1・2」すべて共通である。簿記入門の範囲も復習・演習可能である）						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
各年度に対応した予想問題集等。必要に応じて紹介する。						
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）						
Funda 簿記の利点（問題の出題や、学生個人の学修時間把握など）を活用し、検定合格につなげたい。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1) 費目別計算、個別原価計算に関わる仕訳について、検定試験レベルの問題を解くことができる。 (2) 個別原価計算を用いた原価計算を行うことができ、検定試験レベルの問題を解くことができる。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	費目別計算、個別原価計算に関わる仕訳	難易度の高いレベルの問題を正答できる。	標準的な検定レベルの問題を正答できる。	例題レベルの問題であれば全て正答できる。	標準・例題レベルの問題を総合して、6割は正答できる。	標準・例題レベルの問題を総合して、6割未満しか正答できない。
(2)	個別原価計算による原価計算	難易度の高いレベルの問題を正答できる。	総勘定元帳への記入問題が合格レベルで正答できる。	例題レベルの問題であれば全て正答できる。	標準・例題レベルの問題を総合して、6割は正答できる。	標準・例題レベルの問題を総合して、6割未満しか正答できない。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合	80%		20%				100%	
(1) 費目別計算、個別原価計算に関わる仕訳	30%		10%				40%	
(2) 個別原価計算による原価計算	50%		10%				60%	
評価項目「その他」詳細								
フィードバックの方法	解説が必要な課題や、正答率が悪い課題等については解説を加える。							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	ガイダンス、Funda 簿記の使い方、工業簿記の基礎	Funda 簿記の使い方に慣れる						120 分
2	費目別計算①（材料費の基本）	材料費の基本の予習と課題の解答						120 分
3	費目別計算②（材料の消費）	材料の消費の予習と課題の解答						120 分
4	費目別計算③（予定単価による材料費の計算）	予定単価による材料費の予習と課題の解答						120 分
5	費目別計算④（労務費の基本）	労務費の基本の予習と課題の解答						120 分
6	費目別計算⑤（賃金の消費）	賃金の消費の予習と課題の解答						120 分
7	費目別計算⑥（予定賃率による労務費の計算）	予定賃率による労務費の予習と課題の解答						120 分
8	費目別計算⑦（経費）	経費についての予習と課題の解答						120 分
9	個別原価計算①（製造間接費の計算）	製造間接費計算の予習と課題の解答						120 分
10	個別原価計算②（製造間接費の配賦差異：公式法変動予算）	公式法変動予算による配賦差異の予習と課題の解答						120 分
11	個別原価計算③（製造間接費の配賦差異：固定予算）	固定予算による配賦差異の予習と課題の解答						120 分
12	個別原価計算④（売上原価の計算）	工業簿記における売上原価の計算の予習と課題の解答						120 分
13	個別原価計算⑤（応用）	個別原価計算の応用問題についての予習と課題の解答						120 分
14	個別原価計算計算演習	前期範囲の復習と課題の解答						120 分
15	まとめ	前期範囲の復習と課題の解答						120 分
⑫ アクティブラーニングについて								
知識定着・確認型 AL を採用する。Funda を使い、毎回の出題範囲について課題を課す。解説が必要な問題や、正答率が悪い問題等については解説を加えることで、知識の定着・確認を図る。								

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	
実務経験と授業科目との関連性	